71）占領期の特設旧制高校，東洋高等学校（理科乙類）(2)

Toyo Higher School, During the Occupation Period（Part 2）

東洋学園大学東洋学園史料室　永藤　欣久

Yoshihisa NAGATO, *Toyo Gakuen Archives, Toyo Gakuen University*

（特設）旧制東洋高等学校は戦災で千葉県千葉郡津田沼町大久保に移った旧制東洋女子歯科医学専門学校と同じ校地に設置された．敷地面積2万3千坪（75,900 m^2），総建坪4千1百坪の施設は旧陸軍戦車第2連隊，さらに辿れば日露戦争当時の秋山（好古）支隊の基幹，騎兵第1旅団の第14連隊である．

卒業生の記録と証言では平屋の講義棟1棟の2教室を高等学校としていた．同棟の残る1教室は実態不明ながら1949年4月より東洋女子歯科厚生学校（歯科衛生士）にあてる計画となっていた．正門（旧営門）から入って右手の2階建て兵舎2棟は寮として，うち第1寮1階を高等学校茜寮として使用し，男女は廊下中間に板壁を設けて仕切った．

隣接する帝国女子医学薬学専門学校・理学学校（東邦大学）のその後の展開を鑑みるに，老朽荒廃した軍施設ながら，その規模と環境は将来の大学教育に相応しいものだったと言えよう．

卒業生の記録（証明書の写し）によれば年間授業時数は1年次（半年）109，2年次184，3年次196時間，配当科目（単位数）は人文科学10，外国語66，自然科学134，体育6，計216単位で，自然科学分野では数学48単位，物理36単位，化学22単位の順に重点を置いている．ドイツ語を第一外国語（24単位）として英語36単位のほか，ナンバースクールでも例の少ないラテン語4単位とギリシャ語2単位を開講しており，医学用語の語源として知っておくべきという方針だったという．

授業時間割は2年半の存続中13パターンもあり，専任が少なく兼任講師の出講に左右されたことが窺われる．設置初年度の1947年は文部省に専任教員13名と報告し，最終年度1949年10月付の東洋女子短期大学設置認可申請書では高等学校専任者として8名を記載しているが，5名は卒業生の記憶になく，うち4名は前理事長宇田尚・校長馬渡一得の親族で，名義上の存在だったことになる．

東洋高校文化研究会機関誌『文化』第9号（1950年3月最終号）には出講した全教員を網羅する（と思われる）名簿が掲載されており，公文書上の情報と組み合わせると，校長を含め専任2名，兼任25名，計27名と判明した．東洋女子歯科医学専門学校の専兼比率とは対照的で，専門課程に加え教養課程を要する新制大学を設置する体力が法人になかったことがここからも窺われる．

本来は中核教員として期待され，学生監と事務長を兼ねた石橋嘉一郎（前陸軍予科士官学校文官教授，後女子美術大学理事・教授・事務長）ですら兼任であるが，石橋の努力により講師陣は自らを含む東京帝国大学の18名を筆頭にほぼ帝大系の教員で構成された．若手を主体とする教員の兼任という身分に拘らない指導ぶりの逸話が数多く残されており，その結果としての学生生活と卒業後の進路は次回に報告したい．

校長馬渡一得は東京帝国大学医学部を卒業し鉄道省の医官（内科/衛生学・薬物学）として名古屋鉄道病院長などを務めたが，岳父の東洋女子歯科医学専門学校が戦災に遭い，次いでその岳父が公職追放に該当したことでキャリアを捨て同校校長に就任，さらに高等学校長を兼務したものである．

73）東京医科歯科大学歯学部解剖学教室が収蔵するゾウの頭蓋骨 ～上野動物園で餓死したゾウである可能性について～

The skull of the elephant which Tokyo Medical and Dental University collects

東京都武蔵野市開業　○秋本　和宏
東京医科歯科大学　阿部　達彦

Kazuhiro AKIMOTO, *Musashino City*
Tatsuhiko ABE, *Tokyo Medical and Dental University*

はじめに

東京医科歯科大学歯学部解剖学教室（現顎顔面解剖学分野）標本室にはゾウの頭骨3つ，下顎骨